

無償資金協力に係る事後評価票

担当公館名：在セネガル日本国大使館	
国名：セネガル	案件名：第4次小学校教室建設計画（3/3期）
E/N署名日：2003年5月14日	供与限度額：11.08億円
先方実施機関：教育省（現就学前・初等教育担当省）	完工日：2004年12月17日
他の関連協力：なし	
1. 案件の目的 （B/D時の目標・想定効果を記載）	セネガル政府は「教育職訓10ヶ年計画（2000～2010年）（PDEF）」を策定し、①2010年までの初等教育就学率100%の達成、②教育の質の向上、③マネージメント能力の向上による初等教育の充実等を目標としており、特に、毎年2,000教室の新設と300教室の改修が必要とされている（注：現在は、MDGs達成には毎年2,500教室の建設が不可欠）。我が国は、①の目標達成努力を支援すべく、2005年に計画対象校で約15,000名の児童の新規就学と就学率85%達成を目標に、第4次小学校教室建設計画の実施を決定した。
2. 案件の内容	本件（3/3期）では、ファティック州及びカオラック州の41校に119教室の新設・増設・建替え、便所48棟等を建設する。また、便所を含む施設の使用・維持管理に関するソフト・コンポーネントを実施する。
3. 案件の妥当性	全般的評価：A (1) 我が国は基礎社会サービスの向上を社会開発の柱の一つとしており、中でも教育セクターは重点分野に位置づけられる。 (2) 本件の実施はセネガル政府のPDEFの目標に合致している。 (3) 本件の対象地域は、都市部では人口増加による教室の過密化や2部授業クラスの増加、農村部では学校及び教室の不足から、都市部、農村部いずれでも教室建設のニーズが高かった。 したがって、本案件は、我が国の援助方針、セネガル国の政策及び現地ニーズのいずれにも合致しており、妥当性があるものと評価できる。
4. 施設／機材の適切性・効率性	全般的評価：A－ (1) 施設の評価 本件は完工から約4年が経過したにすぎず、黒板や床のコンクリートに小さなヒビが見られる教室が何件かあった以外、目立った破損は見あたらなかった。視察した同時期に建設された他ドナーの教室では、床のコンクリート剥げ等すでに劣化が進んでいた。そのため、本件施設は、耐久性に優れ、長期的にみた観点からは、将来の維持管理費・修理費の低減につながると評価できる。 また、彩光用にガラスブロックを窓の上部に設置しているのは我が国の協力で建設した教室のみで、セネガル政府や他ドナーが建設した教

	室と比較して室内が明るく、教育環境として優れている。 (2) 機材の評価 生徒用テーブルベンチ、教員用机・椅子、校長用キャビネット等の供与機材は全て使用されており、視察した限りでは破損もほとんどなく、校長及び教員からは堅牢で質が高いとの評価を得た。 (3) 問題点 カオラック市内の小学校を視察した際、1 教室が図書室兼パソコン室に転用されていたのを確認したところ、抗議の上、教室として然るべく使用するように申し入れた（図書及びパソコンは仏系団体から供与された由）。 (4) 総評 本件の施設、機材は概ね適切に使用されており、セネガル側関係者の質に対する評価が高く、適切かつ効果的な投入であったと言える。
5. 効果の発現状況（有効性）	全般的評価：A (1) 本件では、ファティック州及びカオラック州の 41 校に 119 教室の新設・増設・建替え、便所 48 棟の建設が行われた。新設・増設教室だけでも 66 教室あり、1 教室平均 50～60 名とすると、新たに約 3,300～4,000 の児童が就学できたことになる。カオラック州では、基本設計時（1999/2000）44.3%であった就学率が、2007 年には 67.5%と 20%以上上昇したことに貢献した。 (2) 新設・増設のみならず、老朽化した教室を建替えたことにより、教育環境が改善された。本件対象校の校長及び教員によれば、我が国の協力により建設された教室は、明るく、机などの備品もきれいで頑丈であることから、学校を休む生徒が少なくなり、通学率の向上、留年する生徒の減少等の効果があった。 (3) 本件対象校 41 校（3/3 期）のうち、5 校は新設校であり、近くに学校ができたことで就学機会の確保、通学距離の短縮が実現できた。 (4) 便所の建設により、衛生的な環境が整備され、女子就学率の向上に繋がった。女子児童数が男子数を上回る学校もあった（カオラック市内）。 (5) 学校施設の維持管理に係るソフト・コンポーネントを実施したこともあり、視察した 10 校全てで児童が教室及び便所の掃き掃除を毎日、拭き掃除を月に数度実施しており、施設の適切な維持管理が行われていた。
6. インパクト（上位目標への影響等）	全般的評価：A－ (1) P D E F が掲げる年間 2,000 教室の建設と老朽化した 300 教室の改修に貢献した。 (2) 農村部の本件対象校では、父兄会が本件実施後の児童数の増加に対応するために自発的に仮教室を増設していた。

	(3)従来より父兄会は存在したが、ソフト・コンポーネントの実施を契機として学校運営委員会が新設された学校があった。
7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)	全般的評価：B＋ 施設の維持管理は、学校運営委員会が責任を負っており、新学期に父兄が支払う登録料から維持管理費を捻出している。 ＜改善の余地のある点＞ 複数の小学校から門・囲い塀の設置が必要と指摘されたが、当方からセネガル側負担事項であり、県視学官事務所に相談するよう伝えた。囲い塀の未設置により、閉学時に近隣住民が敷地内に入り込んで用を足す、家畜が入り込む等の問題に加えて、校長室と倉庫への泥棒被害もあった。
(1)対応方針	基本設計調査の際、門塀の建設はセネガル側負担事項と合意しているので、引き続き囲い塀の建設をセネガル側に求めていく（現地 ODA タクスフォースで協議の上、2008 年 11 月 27 日付 JICA セネガル事務所発初等教育大臣宛書簡で同建設を督促した）。
(2)対応方針理由	カオラック州視学官によると、小学校施設建設の優先度は、①教室、②便所、③囲い塀、④校長室、⑤倉庫、⑥教員室・図書室の順あり、先方にとっても囲い塀は優先度が高い。しかし、小学校や父兄会の自助努力では同設置まで手が回らないのが実情（余力資金は教室の新設・修理に当てている）であり、セネガル政府、視学官事務所が同設置に責任を持つべきである。
8. 広報効果（ビジビリティー）	全般的評価：B＋ (1)本件で建設された教室、便所には我が国国旗入り銘板が置かれ、今回視察した小学校の教員、生徒には我が国の協力により教室、便所等が建設されたことが周知されていた。都市部に比べて、農村部の新設校では、日本の作った学校として住民にも広く知られていた。 (2)他方、都市部では学校関係者以外我が国の協力について十分に認識されていないように思われた。
9. 被援助国による評価 (外交的效果についても、本欄に記述する)	(1)我が国は、1991 年以降、本件まで 4 次に亘って、426 校 1,511 教室を建設し、セネガル政府の就学率向上政策を支援してきた。セネガル政府は、国家予算の約 4 割を教育セクターに割り当てるほど重視していることもあり、長年の我が国の協力に対するセネガル側関係者の評価は高い。 (2)カオラック州視学官及び本件対象サイトの学校関係者にヒアリングした結果、本件で建設された施設に対して極めて高い評価を得た。他ドナー及びセネガル政府が建設した教室と比較して、質、耐久性などの面で日本が建てた教室が最も優れているとの評価であった。 (3)視察先の小学校では、依然教室が不足しており、我が国の更なる協力を要望する声が多く聞かれた。

	(4) 小学校教室建設支援を行っているドナーの中で、維持管理のソフト・コンポーネントを実施しているのは我が国だけであり、視学官及び現場の教師から高く評価されている。
10. 提言・教訓	(1) 今回の視察において、セネガル側関係者から我が国が建設した教室の質への高い評価、信頼を得ていることが確認できた。他方、就学率の向上、教室不足の解消のため、セネガル側の要請を受けて、より低コストでより多くの教室を建設できるよう、現在コミュニティ開発支援無償の枠組みで小学校建設が実施されている。現地業者を使わずを得ないコミュニティ開発支援無償で一般プロジェクト無償の教室と同等の質を求めることは極めて困難であるが、今までに得たセネガル側からの高い評価及び信頼を損なわないよう質の維持に対して最大限の注意を払うことが必要である。 (2) ソフト・コンポーネントの実施により、教員及び生徒に公共財である学校施設の維持管理の重要性が十分に認識され、今回視察した10校全てで毎日掃除が実施されていた。今後は、ソフト・コンポーネントの指導対象を教員のみならず、県視学官事務所職員にも広め、教員に人事異動が生じて、県視学官事務所職員がファシリテーターとして学校を巡回するなど、施設の維持管理体制が継続する仕組みを作ることが必要である。 (3) 父兄、地域住民をさらに積極的に学校運営に関与させるために、ソフト・コンポーネントで父兄会、地域住民代表を対象としたセミナー、研修などを実施することも検討できると考える。 (4) 都市部のビジビリティを確保するため、学校入口に我が国の協力を示す看板の設置をコンポーネントとすることも一案である。
11. その他	なし

<写真>



教室の前に集まった児童(ゴサス郡)



授業風景(カオラック市)

無償資金協力に係る事後評価票

担当公館名：在セネガル日本国大使館	
国名：セネガル共和国	案件名：職業訓練センター拡充計画
E／N署名日：2003年5月14日	供与限度額：7.59億円
先方実施機関：セネガル日本職業訓練センター（CFPT）	完工日：2005年1月25日
他の関連協力：セネガル職業訓練センター拡充計画（技術協力）、アフリカ諸国職業訓練コース（フェーズⅠ、Ⅱ）（第三国研修）、訓練指導・コース設定（個別専門家）、起業家育成支援（技術協力）、TIG／MIG溶接（個別専門家）、職業訓練指導者養成（電子機器、自動車機械、電子工学）（マリ第三国専門家）	
1. 案件の目的 （B/D時の目標・想定効果を記載）	工業技術系上級技術者の人材拡充を目指すセネガル政府の政策実現支援のため、CFPTに開設された上級技能者資格（BTS）取得コースに対して、施設及び機材などの整備支援を行い、上級技能者の養成を促進する。具体的想定効果は次の通り。 ①制御技術科を電気制御技術科と機械制御技術科に分科、拡充する。 ②日中コースの学生数を48名から72名に増加させる。
2. 案件の内容	機械制御技術分野の機材と共に、BTSの教室、実習棟、多目的棟（図書室、講堂、学生寮）を整備。  BTS実習棟の外観  BTS1年生の授業風景
3. 案件の妥当性	全般的評価：A ①職業訓練支援は、我が国が対セネガル経済協力重点分野に掲げる教育／人的資源開発の柱である。また1982年以降我が国は無償資金協力及び技術協力を通じてCFPTの設立と能力強化支援を実施。 ②セネガル政府は、第一次貧困削減戦略文書、第10次社会開発計画、公共投資3カ年計画、教育職業訓練10カ年計画の中で経済社会開発に資する人的資源開発の促進を掲げている。 ③基本設計（以下BD）策定段階で対セネガル主要企業アンケート調査を実施し、BTSに対するニーズを確認。また、工業高校（ルクセンブルク）、大学などの高等教育機関（世銀）、地方職業訓練センター（EU）などへ支援する各ドナーの援助動向についても事前に確認し

	ていた。
4. 施設／機材の適切性・効率性	全般的評価：B＋ ①供与機材は、B T S 日中コースのみならず、同夜間コースや在職者等の実技研修にも終日使用されており、総体的に適切な投入であった。 ②またB T S 実技用機材が充実しているため、毎年入学希望者も多い。 ③他方、研磨機についてC F P Tは、水平型の研磨機を要請していたが、垂直型の機械が納入された。同機械は授業で活用できず、供与以来使用されていないが、何らかの方法で活用できないかC F P Tに検討を要請した。 ④日本等の小規模な町工場でも一般的に導入されているとの評価（B D）から供与されたマシニングセンターは、西アフリカ唯一の機械と言われている。電子入力工作機械として最も複雑な同機械で実習を受けた生徒は、旋盤等他の電子入力工作機械も操作できる応用力を習得できる。また同機械により、フランス系国際企業のネスレやセネガル化学公社（I C S）等大手企業は、海外発注の5分の1の費用で複雑な部品の製造ができたと高く評価し、同企業でのC F P T学生の研修受入も実現したことから、本件機材の投入意義は十分にあった。  マシニングセンター（注：加工用機械） ⑤講堂のホワイトボードは、セネガルで調達できるマジックペンでは消せないという問題があるが、何らかの方法で使用するよう要請した。
5. 効果の発現状況（有効性）	全般的評価：A＋ ①本件実施後日中コースの学生数が80名に拡大された（2008年）。また夜間コースも新設され、例年約120名が就学している。 ②2008年B T S 資格試験の合格率は日中コース94%、夜間コース77%（2005年の日中コース、及び2006年の日中・夜間両コースの合格率は100%）と全国平均67%よりも高く、本件実施による制御技術科の分科・拡充の成果が十分発言しているといえる。また2005年3月竣工以降のC F P T卒業生のB T S試験合格者は、2006～08年で合計142名（全国で838名）であり、B Dで想定されたC F P T出身B T S有資格者の対全国比15%目標を達成すると共に、セネガルにおける上級技術者の人材拡充に寄与した。

6. インパクト (上位目標への 影響等)	全般的評価：A CFPTは、在職者等の実技研修も行っており、貧困削減戦略文書、社会経済開発計画、公共投資3カ年計画で謳われている「企業パフォーマンス支援及びそのフォローアップ」に貢献している。
7. 自立発展 性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については 以下に記入)	全般的評価：A ①CFPTは、然るべく供与機材の整備、定期点検、消耗品等の在庫管理している。また日本でしか調達できないスペアパーツについては、CFPT教員が日本で集団研修を受ける際に調達して対応している。 ②過去、日本人専門家等から整理整頓の不十分さ等の指摘があったが、現在CFPTは、外部専門家による維持管理評価を委託しており、質の高い維持管理体制の確立に努めている。 ③また、図書館に専属司書を配属し、図書電子検索システムを自助努力で導入する等システム改善に努めている。なお、今年1月からの7ヶ月間で773件の貸出が行われた。 ④CFPTは、BTS夜間コースを自助努力で新設すると共に、以下の通り外部パートナーとの関係強化や政府予算以外の財源拡大に努めている。 - 国家職業訓練事務所（ONFP）やACCIONA（スペイン企業）等に対する在職者等実技研修を実施（2007年実績：21件、1689時間、339名（注：CFPTの当初想定900時間を大幅に上回った）。2008年上半期実績：12件、1111時間、154名）- スペインで就業するセネガル人労働者向け短期研修の実施（スペイン政府事業） - 我が国第3国研修の受入や第3国専門家派遣の実施 - 講堂をカナダ、スペイン、ルクセンブルグ、ILO等各ドナーのセミナー会場として有償で貸与 ⑤また、独自事業の実施で運営資金は改善しているが、機材の更新や新規コースの開設については、政府の財政状況次第となる。
(1) 対応方針	垂直型の研磨機の有効活用を要請し、定期的にフォローアップする。
(2) 対応方針理由	なし
8. 広報効果（ビ ジビリティ ー）	全般的評価：A ①CFPTはセネガル国民の間で「日本センター」と知られている。 ②本件開所式にはウッド大統領も臨席。メディアも大々的に報道した。



ワッド大統領が出席した引渡式



旋盤

③供与機材にはODAステッカーが貼付され、学生にも十分認知されている。

9. 被援助国による評価
(外交的効果についても、本欄に記述する)

①CFPTは、セネガル職業訓練政策の中心的役割を担うことが期待されている。
②我が国は、CFPTで中西部仏語圏アフリカ諸国向け第3国研修を実施。また、CFPTの指導員が第3国専門家として活躍する等、CFPTは中西部アフリカ地域の職業訓練技術向上に貢献しており、我が国の本件協力はセネガルのみならず、周辺国に対しても良い効果を発現している。

10. 提言・教訓

研磨機の仕様選定については、CFPT、日本人専門家、コンサルタント間での協議がフランス語で実施されたことから、日本語あるいは英語からフランス語に翻訳する過程で関係者の理解に齟齬が生じた可能性がある。機材選定には、製品カタログや写真等も用いつつ、施主、コンサルタント間で十分仕様詳細を確認することが求められる。また、ホワイトボードについては、セネガルで調達できるマジックペンの質との関係で問題が生じた。今後、黒板やホワイトボード等については、現地調達できるマジックペンやチョークの質も十分に調査の上、適切な品質の製品が調達されるよう配慮すべきである。

11. その他

TICAD IVフォローアップの一環として、2008年9月に貿易・投資促進合同ミッションがセネガルを訪問した際、CFPTの現地視察を行った。今後、CFPTからの有望な人材供給等を通じて、日系企業のセネガル進出が促進されることが期待される。